

# こが



## 市議会だより

<http://www.city.koga.fukuoka.jp/>



🐼 「ねえねえいっしょに遊びましょ」新しいお友達と 🐼

### 特集

- 10年の計画を慎重審議・・・・・・・・・・ 2
- にぎわい創出効果に期待・・・・ 4～5
- 施政方針を問う！・・・・・・・・・・ 6～7
- 常任委員会報告・・・・・・・・・・ 8～9
- ここがききたい！一般質問・・・・ 13～19
- ボランティア訪問・・・・・・・・・・ 20

## 第59号

平成24年（2012年）

5月8日

発行責任 福岡県古賀市議会

# これから10年のまちづくりに 6つの提言

## 議員全員で慎重審議し、賛成多数で可決

### 第4次基本構想審査特別委員会

委員長 西尾 耕治

本委員会は、総合的かつ計画的な行政の運営を図るため制定される、10年に一度という大変に重要な議案であることから、昨年の12月から、約2カ月間、短い期間でしたが、13回にわたり、集中的に効率よく、委員全員で熱心に取り組みました。

その過程においては、初めての試みと思われる分科会の設置、委員会を代表しての総括質疑の実施、各委員からの総括の意見を提議する場も持ちました。また、添付資料として、委員の意見や審議されたポイントなどを文章にまとめて、執行部へ渡しました。審議内容としては、基本構想部分で、平成23年度の記述の欠落、事業のスピード感、原発問題、土地利用政策の総括、犯罪の多様化、都市イメージの文言の総花的との意

見、目標人口と推計人口との差、公共交通の充実、重点プロジェクトでの表記の仕方などの質疑が出ました。分科会では、さらに細かく質疑を行い、その後、委員会を代表しての総括質疑へと進み、次に、6人の通告者からの総括質疑を行いました。

日にちを改め、討論採決の結果、賛成多数で可決しました。委員会から総意として出された委員長による総括質疑を中心に留意していただき、委員会の中で討議された以下のことを、特に、委員全員の意思が流れていることを認識して、市民のために政策を進めていくことを強く望みます。

### 委員長報告に盛り込まれた6つの提言

1. 本委員会での質疑、意見、提言は、提出された資料文書も含め、最大限に尊重し、市民の利に供するように反映されること。
2. 都市イメージは、総花的という指摘も多く、課題と特徴を明確にし、計画的、かつ総合的なまちづくりを遂行すること。
3. 重点プロジェクトは、庁内における連携プロジェクトという趣旨が強く、計画書にその趣旨を記述し、推進する政策は、前期5年間の重点を明らかにすること。
4. 目標人口は、目標と推計の差異が大きいとの指摘が多く、その推移に注意

し、分析を行い、公共サービスと行財政体制の実質的規模を的確に見通し、市民のために各施策を推進すること。

5. 土地利用は、前期5年間は都市計画区域編入を延期する変更を加えたことから、特定用途制限地域指定などの施策を着実に遂行し、その状況を検証すること。

6. 基本構想に基づく施策を進めるにあたって、前期基本計画の検証状況、ならびに後期基本計画の素案は、しかるべきときに、議会に示し、協議の場を持つこと。



報告書を市長に手渡す正副議長と総務委員長

●予算特別委員会

第4次総合振興計画

スタート年の予算審議

委員長 阿部 友子

予算特別委員会（議長を除く全議員）で、付託された平成24年度古賀市一般会計予算及び6特別会計予算・水道事業会計予算を5日間かけて慎重審議しました。

ボトムアップ事業を多数取り入れた予算について審議の概要を報告します。

一般会計歳出、総務関連では、路線バス運行補助における増便や燃料費について、第1庁舎耐震診断委託の基準、スケジュールなどについて。

福祉関連では、配食サービス事業の減少の理由、高齢者外出促進事業の内容について。

清掃・環境関連では、太陽光発電システム設置、エネファーム設置の今後の計画、剪定枝回収委託の拡大について、玄界環境組合負担金について、循環型社会研究事務費

などの質疑がありました。

産業関連では、K-1（古賀の一品）グランプリ事業費に質疑が集中し、参加品目、年間スケジュール、実行委員会メンバー、市民周知などについて審議しました。

教育関連では、舞の里小学校校庭の芝生化、全小学校扇風機設置の時期と中学校にも設置をという要望、学校図書館司書についてなど質疑がありました。

市長質疑では、「循環型社会研究事務費」について、「企業誘致推進事業」について2人の議員が質疑を行いました。

採決の結果、賛成多数で可決しました。

介護保険特別会計では、認知症早期発見システムなどについて質疑があり、賛成多数で可決。国民健康保険特別会



予算審議のもよう

計では、特定健康診査受診率の見込み、コンビニ収納などについて質疑があり、賛成多数で可決。水道事業会計では、第10期拡張事業の内容、水道メーター検針業務委託料についてなどの質疑があり、賛成多数で可決しました。

後期高齢者医療特別会計では、賛成多数で可決、住宅新築資金等貸付事業特別会計、公共下水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計は、賛成全員で可決しました。

賛成討論 2人

平成24年度  
一般会計予算

反対討論 1人

- 学校給食への地場農産物の使用促進に取り組まれている。
- 18歳までの入院費助成に取り組まれた。
- 市民向けの予算説明資料の作成、予算策定プロセスをガラス張りに。
- 西鉄バス補助だけでなく、市民の利便性向上のために、公共交通体系の調査研究を進めるべき。
- 玄界環境組合負担金は市財政を圧迫。過大な規模は後年に大きな負担となる。
- バイオマスを含む資源循環型都市こがに向けて調査研究の前進を。
- 中央公民館研修棟及び周辺施設整備事業費で多くの市民の声を聞かれない。
- 18のボトムアップ事業など職員の熱意、職員力で市政を支えられたい。

- すべての同和対策事業を終結し、一般施策への移行を速やかに行うべき。
- ごみ減量への指導性が感じられない。ダイオキシン類常時監視システムの導入を。
- 一般財源からの介護保険への繰り出しをもっと多くすべき。保険料の減額免除制度を。
- 30人以下学級の実施を、8小学校3中学校の学年すべてに行うべき。
- 18歳までの子どもの医療費の助成は入院費だけでなく、通院費まで拡大すべき。
- 公立・私立保育料の保護者負担の軽減も充分ではない。
- プレミアム商品券発行補助900万円は十分な効果を出しているとは言えない。
- 経済効果が期待できる住宅リフォーム助成制度の導入の考えがない。

平成 24 年度予算を賛成多数で可決

# にぎわい創出効果に期待

一般会計約 172 億 9 千万円は前年度比 1.7%減

予算特別委員会は、5 日間にわたり平成 24 年度当初予算を集中審議しました。施政方針に掲げられた 5 つのテーマに基づく予算案として、平成 24 年度に行う主な事業について、多くの質疑が出ました。その中で特徴的な事業を中心に報告します。

**西鉄バス運行補助** 3400 万円  
**サンコスモシャトルバス** 540 万 3 千円

昨年引き続き、市内路線バスの運行維持のため、西鉄バス宗像に運行経費の一部を補助します。前年度比 244 万 9 千円の増額。増額の理由は、小竹系統は古賀駅からの最終便が 18 時半となっており、利用者の利便性を向上させるため、夕方 4 往復増便による西鉄の人件費等によるもの。サンコスモシャトルバスは、公共サービスの利用向上を目的として、平成 23 年度は市役所とサンコスモ間を 25 往復。今年度は、隣保館（ひだまり館）が新原に移転したことから、市役所とサンコスモ古賀の隣保館を結ぶことにしたものの、1 日 16 往復と便数が減ったことに対し、議会から市民の利便性などを心配する声も上がりました。

**ハザードマップ作成事業費** 775 万円  
**地域防災計画** 12 万円

施政方針に掲げられた安全・安心プロジェクトの中で、東日本大震災を踏まえ、災害時に円滑な避難が行えるよう、地震・津波ハザードマップを作成し全戸配布をします。また、国・県の防災計画に合わせて「古賀市地域防災計画」の見直しを行います。なお、平成 23 年度は校区単位とした自主防災組織を 2 校区で設立しましたが、今年度は、すべての行政区に自主防災組織を設立する計画です。

平成 24 年度当初予算額

会計名	当初予算額 (万円)		対前年度比
	平成 24 年度	平成 23 年度	
一般会計	172 億 9068	175 億 8943	▲ 1.7%
住宅新築資金等貸付事業特別会計	635	1098	▲ 42.2%
国民健康保険特別会計	55 億 1283	53 億 4067	3.2%
後期高齢者医療特別会計	5 億 7698	5 億 4482	5.9%
介護保険特別会計 (保険事業勘定)	30 億 5675	27 億 8786	9.6%
介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)	1917	2068	▲ 7.3%
公共下水道事業特別会計	17 億 4590	20 億 4706	▲ 14.7%
農業集落排水事業特別会計	3 億 2365	3 億 1910	1.4%
水道事業会計	14 億 578	16 億 6223	▲ 15.4%
総合計	299 億 3809	303 億 2283	▲ 1.3%

(千円以下切捨て)

**太陽光発電設置補助** 1600 万円  
**エネファーム設置補助** 150 万円  
**循環型社会研究事務費** 117 万 2 千円

平成 22 年度よりポトムアツプ事業として 3 年連続補助を行ってまいります。太陽光発電システムを設置する個人に、1 件 10 万円上限の補助を 160 戸見込み。家庭用燃料電池の「エネファーム」は、平成 24 年度以降に国の補助金の交付決定を受けた方が対象。1 件 10 万円で 15 件見込み。循環型社会研究事務費では廃棄物の今後のあり方をテーマに、先進地研究等を行うものです。



### 高齢者の外出促進事業 345万8千円

地域や団体とのつながりが少ない高齢者の孤立化を防ぐ外出のきっかけづくり。イベント参加でポイントが貯まり、健康グッズと引き換えができる。

### 西鉄宮地岳線跡地活用を コンサルに委託 1020万円

花鶴川河口から福津市境まで、市土地開発公社が先行取得した約35000㎡の旧鉄道跡地について、市民意見や、費用対効果を踏まえた活用方法の検討を業務委託。平成25年度以降、事業化に取り組む。

### 「焦がし商品」開発事業に 50万円

市独自の商品開発、ロゴマーク、共通ののぼりを作成する。

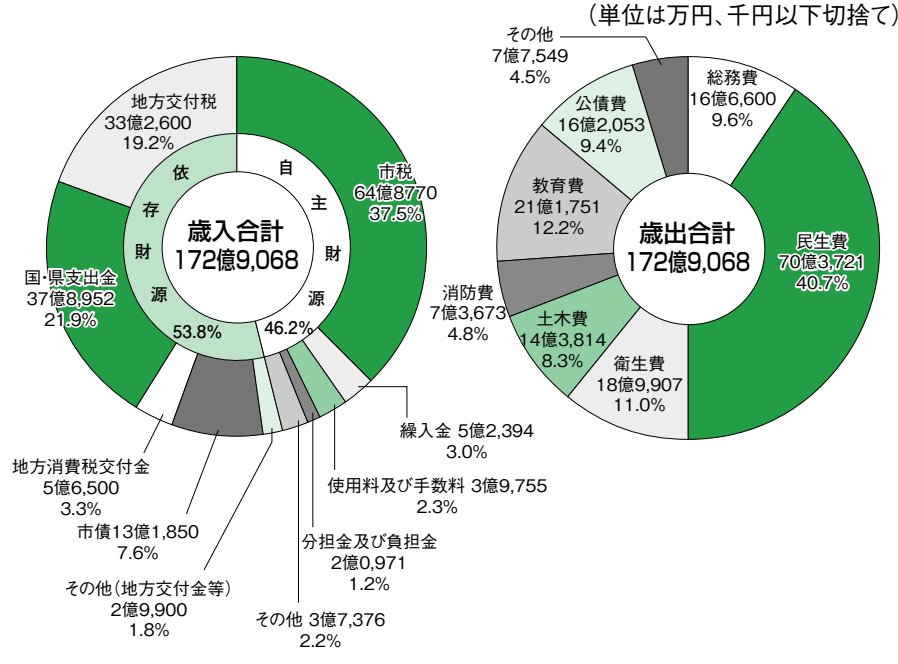
### K-1（古賀の1品） グランプリ事業 594万6千円

6次産業化に取り組む事業者と農業者を支援。まつり古賀に合わせ、来場者投票による古賀の特産品グランプリを展開する。

### 特産品PR事業に 797万5千円

食品工業団地、古賀SA、JR古賀駅の観光案内所の3カ所で古賀の強み、多彩な工場群とモノづくりの力の相乗効果をねらった「古賀市特産品PR活動支援事業」。

## 平成24年度当初予算 一般会計歳入・歳出の内訳



研修棟建て替え 392万9千円  
本館設備改修 574万2千6百円

JR古賀駅にも近い元古賀中学校の校舎だったリーパスプラザ（中央公民館）研修棟は、老朽化のため半世紀ぶりに解体・新築工事に向かうことになりました。

研修棟は平成22年度で、368利用団体、年間延べ利用者数13万8千人にものぼり、800席収容の大ホール本館と一体となった古賀市の文化の殿堂施設です。

平成24年度は392万9千円の予算が計上され、用地測量や選考委員の選任をはじめ、プロポーザル方式で企画の募集と選定に入ります。平成25

年度に設計委託、平成27年度に完了予定です。

また、本館も昭和60年竣工から26年が経過し、設備も耐用年数を越えているため、10年間の保全計画により段階的に改修工事が進められます。

平成24年度は舞台音響設備やトップライト改修工事などで574万2千6千円の予算が計上されました。

### まちなかにぎわい再生 100万円

高齢化率40%以上の行政区に若い世帯の居住促進、地域のコミュニティの維持を支援する事業。平成24年度は中央区と古賀団地区が対象。1世帯20万円で5世帯を見込む。



建て替えが待たれるリーパスプラザ研修棟

# 問う!

## 平成24年度 施政方針重点プロジェクト

1. 「地域活性化」
2. 「子どもすこやか」
3. 「安全・安心」
4. 「健康づくり」
5. 「活躍支援」

### 平成24年度の施政方針について

船越義彰(自由)

問 市街化調整区域の土地利用はどう進めて行くのか。

市長 県開発許可条例に基づき、行政区申し入れにより検討。

問 都市計画区域以外の土地利用の進め方は。

市長 特定用途制限地域の指定に向け、行政区ごとに説明会を開催。

問 企業誘致は、具体的にどう進めるのか。

市長 庁内に企業誘致推進本部を設置し、具体的に検討。

まずは篠林地区の開発支援を。問 緑を守るための農業支援策は、市としてできる事から取り組んでほしい。

市長 国の補助による事業支援策を有効に活用して、農業者の支援をする。

問 中央公民館研修棟の計画は。

市長 平成26年度着工を予定。問 会派より申し入れた古賀駅周辺の防犯カメラの設置は。

市長 3月中に7台設置した。

### 求められているのは、市長の判断力・決断力・行動力

清原哲史(希来里)

問 今日の経済情勢と今後の地方自治のあり方について、どのように認識しているか。

市長 先行きが不透明。自己決定、自己責任、選択と集中による自治体運営が必要。

問 平成24年度は、挑戦の年にしたいと述べたが、最優先課題は何か。執行体制は、どうするのか。

市長 地域活性化を重点項目とし、政策秘書係を新設。情報収集や企画立案業務が、効果的に発揮できるようにする。

問 市長が陣頭指揮を執るべきだが、就任1年2カ月では無理がある。副市長と協議し、重点プロジェクトを推進すべきと思うが、副市長が3月末で県に帰るとするのは事実か。

市長 事実だ。問 副市長空白は問題。市長の判断力、決断力、行動力に市長 じっくり検討する。大きな問題がある。今後の副市長人事は。

### 市民の生活に伝える、身近な政策の充実を

三好貴一(山海会)

●質問項目 ①市長は産業の誘致や、関連する基盤整備について述べている。施政方針では、情報収集に努めると述べているが、どこを重点とするのか。②子育て支援の施策があるが、子どもための環境やまちづくりをどう考えているか。③人権施策について、学校教育や社会教育など、すべての市民の人権について考える機会をどう充実させる考えか。④公共交通の整備について。

●まとめ

地域経済の活性化が市政の展望を開くとしているが、国内経済の停滞など、市民の暮らしの環境は厳しい。工場集積を活かした活性化、情報収集を重点とする企業誘致などでその展望は開けるのか。より一層市民の生活に伝える、身近な政策の充実が求められる。

### 震災の教訓をどう活かす

結城弘明(政風会)

問 東北大震災は市重点プロジェクトに活かされているか。市長 総ての業務に関わると認識。

問 財源確保、経費節減、効率投資で強い自治体の構想は。市長 第4次総合振興計画10年間で、地場産業の活性化と篠林地区の開発を支援。財源確保は企業誘致等で。

問 観光拠点と方策は。市長 葉王寺温泉を拠点に地元と連携し、具体策を検討。

問 少子化の中、保育環境の整備は大いに期待、具体策は。

# 第4次古賀市総合振興計画 初年度

# 施政方針を

本会議中日（3月6日）において、施政方針に対する会派の代表者による質疑を行いました。概要を報告します。



※質問時間は会派人数（1人当り5分）に応じて持ち時間制としました。

## 施政方針に思いはあるか

阿部友子（明友会）

市長 保育所や幼稚園に備品や遊具の補助。恵保育所は土砂災害に備え整備する。

問 特定用途制限の利点は。

市長 関係者の合意が容易。

### ●質問項目

① 持続可能な社会づくりとは  
② 財源の確保はどうする  
③ 薬王寺温泉の観光拠点エリアづくりとは  
④ 新隣保館の地域交流促進事業について  
⑤ 路線バス小竹系統増便による利便

性の向上はなるか。

### ●③について

薬王寺温泉の観光拠点エリアづくりについては、周辺に水辺公園を初め、興山園、愛宕山、ホテルが生息する薬王寺川や、薬王寺廃寺跡をは

## 挑戦の年にふさわしい行動を起らせ

西尾耕治（公明党）

はじめ、歴史的資源も所在している。PR、集客するために、点でとらえるのではなく、自然や資源も含めた面として

とらえ、一体となった観光拠点づくりを行い魅力を高めた

問 国の経済の動向はかなり楽観的。増税まっしぐらの政府。市の経済政策で不足はないか。甘く見すぎでは。

市長 厳しい状況と認識。年度途中でも必要に応じて適宜補正予算で対応。

問 インターネット中継は、緊急災害時に市民へ即座に情報を流せるシステムにすべき。

市長 総合的に検討する。

## 第4次古賀市総合振興計画の後期計画は

内場恭子

問 後期5年間の計画はいつ、つくられるのか。市長のかかわりは。構想はあるのか。

市長 後期計画は平成28年度に策定。後期5年間計画に積極的にかわりたい。残された任期、古賀市の発展のために尽力していきたい。後期計画は、前期計画の実施状況を

踏まえて策定するべきもので、現段階での構想はない。

問 市長の任期はあと3年。まして、前期計画をどう点検し、どこに力を尽くすのか。

市長 職員一丸となり、前期基本計画の5年間をしっかりと実施していきたいように、力強い市政を展開していきたい。



# 総務委員会

- ◎内場恭子 許山秀仁
- 田中英輔 高原伸二
- 吉住長敏
- 西尾耕治

## 自主防災組織や防災無線など

### 災害への備えが進む

自主防災組織は11行政区に設立。防災備蓄倉庫は8小学校に建設。備蓄は飲料水、保存食や毛布、アレルギー対応ご飯やミルクなどを準備済みです。

洪水土砂災害ハザードマップは、新聞見開きほどの表裏で、市内全域マップと市内を4分割したマップを、平成24年4月以降に配付予定です。

防災行政無線に電話応答機能を追加し、平成24年4月から避難勧告指示

などもメール配信や電話ファクスで対応する予定です。

問 放射能測定器の台数は。配備はどこに。

答 総務課に2台、サンコスモ古賀に1台、もう1台は配置を調整中。

**コミュニティの紹介が市のホームページに**

校区コミュニティ活動で、小野校区運営協議会の防犯パトロール活動が、粕屋警察署より表彰されました。

市のホームページに、校区コミュニティの取り

組みを紹介するサイトを準備中。

**新規職員を採用**

一般事務職に、計8人を予定。

**路線バス小竹系統が増便**

西鉄バスの平成23年12月までの実績は、運行経費が約4735万円、運賃収入ほか約3052万円、利用人員合計約20万人。

今年度は、通勤・通学の利便性を考え、小竹系統の夜便を増便。シャトルバス運行は、新隣保館へ接続し、16往復程度に

する予定。

**西鉄宮地岳線跡地を購入**

福津市境から大根川の橋梁まで、面積約3万5千㎡を、平成24年度に1億9800万円で、古賀市土地開発公社が先行取得を予定。

問 坪単価は。跡地の利用法は。

答 坪単価1万8500円程。利用法は市民の意見を聞き決定する。

ほかに、財政課から入札の適正化、



活用が待たれる宮地岳線跡地鉄橋

# 委員会 究レポート

◎は委員長、○は副委員長

## 文教厚生委員会

- ◎芝尾郁恵 倉掛小竹
- 清原哲史 阿部友子
- 松島岩太
- 姉川さつき

### 新原に隣保館移転

問 新隣保館では、消費者相談や、無料法律相談業務も移設されるが、旧

隣保館の運用は。

答 現在検討中だが、貸館業務はしない。

問 新隣保館事業として、経済的に厳しい家庭の子どもの就学サポートも考えるべきでは。

答 新たに行う方向。

**待機児童の心配はあるか**

問 入所児数1049人、定員充足率は約122%と、大幅に超えているが。

答 国の面積基準には適合し、保育士は適正に配

置している。

問 病児保育の要望が保護者からあるが、病後児保育所を病時保育所にはできないか。

答 病児保育は、医師の管理下での保育が原則となる。医師の確保、費用面でも非常に厳しい。

問 恵保育所等の災害避難時の対応は。

答 今後、各保育所独自の

の防災計画の見直し、避難場所の選定などを検討。

**健診・予防接種の現状は**

問 平成22年度、特定健診受診率は23・8%と低迷しているが、受診率アップをねらった年賀状の効果は。

答 1月以降、1000人が受診した。

問 ポリオの不活化ワク



# 常任 調査・研

チンが話題だが。

答 国は生ワクチンを推奨しており、市もその方向で、来年度の集団接種を予定。

**生活保護世帯への就労支援対策は**

問 461世帯にのぼる保護世帯への就労支援は。

答 無料職業紹介所と連携し、87人の内31人が就

労している。

**校庭芝生化が拡大**

問 花見小学校の芝生管理の状況は。

答 芝生管理委員会主催

で、地域の協力のもと維持管理を行っている。今後、1校拡大する方向。

**給食食器の改善は**

問 小学校の給食の様子を視察したが、食器が大

きく重いせい、犬食いの状況が見られた。磁器食器破損の事も考え、安全で軽い食器に見直す必要もあるのでは。

答 食器の重さの問題は検討する必要があるが、現在の洗浄機では対応はできない。

となりです。

**18歳までの入院医療費助成**

4月1日から開始。対象者には、3月末までに医療証を発行。今後申請があれば随時受け付けます。

**下水管等の長寿命化**

市内の地下には、下水管、汚水管などが246kmにわたり敷設されています。これらの排水管の長寿命化対策が、国の補助を受けて、平成25年から5カ年計画で始まりま

す。

**海岸の松林がピンチ**

古賀の海岸の松林は、花鶴海岸から花見海岸まで、白砂青松を誇っていますが、松くい虫による被害が懸念されています。被害木82本は伐採予定ですが、近隣市町では、大きな被害が出て、問題となっています。今後、薬剤散布や樹幹の薬剤注入など、徹底した防除対策が望まれています。

固定資産税、市県民税、国民健康保険税、軽自動車税など、全ての税金について、コンビニでの納付が可能になります。

**税金のコンビニ納付が可能に**

平成24年度から、

## 市民建産 委員会

◎飯尾助広 前野早月  
○船越義彰 結城弘明  
三好貢一  
仲道誠明

### 無料職業相談所で就労支援

不況のあおりで就職難の中、古賀市役所1階にある無料職業相談所は、平成23年4月～9月

**2年目を迎える「新米さんいらっしゃい事業」**

で、求職者数446人に対し採用決定者は274人（決定率61%）と高い実績を残しています。

2人の担当者の経験や

市内に住民登録した新婚さんに、古賀の米50kg進呈。若者の定住化を目的に始まったこの事業も、2年目を迎えました。

**学校給食支援事業**

平成23年度目標300組に対し、4月から12月の実績は152組でした。（平成22年度実績は225組）

学校給食に使う地元作物として玉ねぎ10アールを栽培。じゃがいもも作付けを予定されています。

**環境市民会議が設立**

企業、各種団体、個人などから100人を目標に募集し、平成24年3月27日に設立総会を開催。市民の側から、環境基本計画を推進していく組織

です。



成果を上げる古賀市無料職業紹介



新隣保館開所式にて（3月25日）

# 第1回定例会の主な審議

平成24年第1回定例会は、第4次古賀市基本構想の議決、平成24年度予算の審議がありました。(詳細は前項の特集記事をご覧ください。)

## 第4次古賀市基本構想、賛成多数で可決

昨年12月の定例会で、継続審査としていた「第4次古賀市基本構想」が、本会議初日に反対3、賛成15の賛成多数で可決しました。

反対討論では、計画全体に不備が多い、人口増の具体策がない、はつきりした将来図が示されていない。また、策定段階での市民参加が十分、市民満足度が低い公共交通が重点プロジェクトにない、循環型社会のはつきりした政策がない、空白期間について記述がないなど。

また賛成討論では、すばらしい、非常に良くできている、作成に関わった職員に感謝したいなどがありました。



市民公募で愛称は「ひだまり館」

## 隣保館が新築移転

### 「ひだまり館」に

隣保館が新たにバリアフリー施設として、新原に建て替えられました。

鹿部の旧隣保館は、1階部分は集会所、2階部分は今後有効活用が検討されます。

## 一般会計増額補正

### 1億1657万5千円

平成23年度一般会計補正予算の主なものは、第4次総合振興計画製本の内容充実にかかる費用として42万円の増額。また、市内公共交通網整備事業の西鉄バスへの補助金が、ガソリン価格の高騰により263万円の増額。また、医療扶助費の全体的な見込み増がありました。

一方で、予定していた小型ポンプ自動車など、市内消防施設整備では東日本大震災の影響を受け、台数の見直しを行い減額となっています。

本会議中日の採決の結果、賛成全員で可決しました。

## 高齢化を見据え、介護保険料を値上げ

今回上程された介護保険条例の一部改正は、65歳以上の高齢者が今後3年間に支払う介護保険料を、市町村の実績や見込みに応じて改定するもので、3年に一度見直しが行われています。

古賀市では高齢者の実態調査を基に保険料を算出し、第4期から700円増の4700円が基準額となります。

また、新たな高齢者福祉施策事業として介護老人福祉施設

設40床と、1ユニット9人分のグループホームの充実が盛り込まれる予定です。

本会議では、値上げは年金生活者にとって負担が大きく、安心してサービスが受けられないとの反対討論や、保険料は所得に応じて細分化されている、限られた財源で、制度が堅持されることを願うなどの賛成討論があり、採決の結果、賛成多数で可決しました。

対象者	段階	改正前	改正後
生活保護及び高齢年金受給者 (世帯全員非課税)	1	2000	2350
課税年金+合計所得が80万円以下 (世帯全員非課税)	2	2000	2350
課税年金+合計所得が80万1円以上 120万円以下(世帯全員非課税)	3	3000	3290
			3525
本人非課税、世帯に課税年金+合計所得 が80万円以下の人	4	3800	4465
			4000
本人課税で合計所得金額が125万円未満	5	4400	5170
本人課税で合計所得金額が125万円以上 190万円未満	6	5000	5875
本人課税で合計所得金額が190万円以上 300万円未満	7	6000	7050
本人課税で合計所得金額が300万円以上 400万円未満	8	7000	8225
本人課税、合計所得金額が400万円以上 500万円未満	9	7400	8695
本人課税、合計所得金額が500万円以上	10	7800	9165

大きく変わる介護保険料(円)

## 請願

24年 請願1

「子ども・子育て新システム」に関する意見書提出を求める請願

この請願は、国が示した「子ども・子育て新システム」に対し、慎重な再検討を求めよう意見書提出を求めるものです。文教厚生委員会に付託され、本会議では、児童育成の理念から外れ、保育の質の低下が危ぶまれ、公的責任の後退が懸念されるなどの賛成討論があり、採決の結果、賛成全員で可決しました。

代表 井手道子

紹介議員 田中英輔、船越義彰

## 意見書

「子ども・子育て新システム」に関する意見書

この意見書は24年請願1の採択を受けて「子ども・子育て

新システム」の慎重な再検討を求めるものです。

本会議において賛成全員で

可決し、政府に提出しました。

提出者 文教厚生委員会

委員長 芝尾郁恵

防風保安林の松枯れ対策に関する意見書

海からの強風や潮風、砂

の飛散を防ぎ人々の生活を守る

防風林が、近年では松くい

虫による松枯れの被害が著し

く、一部では壊滅的状態となっ

ています。このような松林の

危機的な状況を改善するた

め、早急に対策を講ずるよう

要望するものです。

本会議において賛成全員で

可決し、政府に提出しました。

提出者 仲道誠明

賛成者 船越義彰、田中英輔、

前野早月、結城弘明、阿部友

子、芝尾郁恵、内場恭子

東日本大震災で発生したがれきの受け入れに関する意見書

この意見書は、玄界環境組

合に対して、安全性等の条件

が整えば、被災地のがれきを

受け入れる方向で、研究・検討し、住民に説明することを求めるものです。

本会議において賛成全員で

可決し、玄界環境組合に提出

しました。

提出者 西尾耕治

賛成者 船越義彰、田中英輔、

前野早月、結城弘明、阿部友

子、芝尾郁恵、内場恭子

## 陳情書・要望書

地球社会建設決議に関する陳情書（1月30日）（4月8日）

陳情者 荒木 實

震災がれきの広域処理問題について問題点に関する要望書（3月30日）

要望者

九州住民ネットワーク

事務局長 原 豊典

「ししが駅東側周辺の用途地域変更」に関する要望書（4月1日）

要望者

『美明を子どものふるさとに』

代表者 吉野 誠一

## 東日本大震災で発生したがれきの受け入れに関する意見書

平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方を始め、東日本の広範囲にわたる地域が、大地震とそれに続く大津波、さらに福島第一原発事故によりきわめて深刻な被害を受けた。

この大震災から早くも1年が経過した。全国の自治体、多くのボランティアが、被災地の復旧と復興に向けて取り組んできた。古賀市でも宮城県東松島市を中心に職員を派遣するなど、様々な形で復旧と復興に向けた支援を進めてきた。

しかしながら、被災地の復旧と復興に向けて大きな障害となっているのが、膨大ながれきの処理である。岩手、宮城、福島3県の沿岸部のがれきは約2252万トンで、処理済は約7%にすぎない。岩手と宮城両県の約400万トンが広域処理の対象だが、受け入れたのは東北地方と東京都だけである。静岡県島田市が受け入れを表明したが、全国的にはほとんど進んでいないのが実情である。

このままでは、この先十数年にわたってがれきの山は片付かず、被災地の真の復興は果たせない。被災者の意欲をも阻害してしまう。国は、がれきの再利用や広域処理などを責任持って進めるべきである。被災地の方々の苦悩を思うと、1日も早い処理が求められている。

しかし、広域処理を先導すべき国の対応はきわめて不十分と言わざるを得ない。3月になってから対策が打ち出されつつあるが、被災地のがれきの安全性の説明は不足し、地方自治体や国民の理解が得られず、受け入れはほとんど進んでいない。その中で、静

岡県島田市のように、被災地に思いを寄せる地方自治体が、住民説明や実験燃焼など自力で条件を整備し受け入れを表明した。議会の決議も次々と上がってきた。地方自治体や議会の中に主体的な動きが広がっている。

野田首相は3月中旬、都道府県知事に対しがれき受け入れへの協力を求める文書を送った。福岡県は、3月26日に県内全市町村や一部事務組合の担当者を集め、被災地のがれき受け入れの検討を求める説明会を開催することになった。

国、県の指示や割り当てという受身の姿勢ではなく、地域の実情を踏まえ主体的に対応を決めることが求められている。

よって、本市議会は、安全性等の条件が整えば被災地のがれき（通常の廃棄物相当と判断されるもの）を受け入れる方向との立場から、玄界環境組合に対し自主的かつ適正に判断するために積極的に検討することを求める。特に、以下の課題について早急に研究・検討に着手し、構成自治体や議会、住民に報告・説明することを求めるものである。

- 1 被災地の視察を含め、被災地のがれきの実態や被災地の取り組み
- 2 被災地のがれき（通常の廃棄物相当と判断されるもの）の安全性、放射性物質の安全基準の根拠ならびに測定等の対策
- 3 被災地からの運搬方法、安全対策ならびに経費
- 4 玄界環境組合の焼却ならびに焼却灰等の処理能力
- 5 市民、地元区への説明など理解を求める対策



# 第3回議会研修会

## 「古賀市の産業力」を学ぶ

平成24年2月1日、商工政策課職員を講師に「古賀市の産業力〜商・工業を中心に〜」について学習しました。

- 資料として、過去30年にわたる市内総生産、市民所得ほかの各種データ、古賀市の特色・強み、今後の展望などをまとめたものが準備されました。古賀市の商工業の歴史や産業力を知る上で、大変貴重な資料で、これからの商工政策、まちづくりを考える上で、大変意義深い研修会となりました。
- 古賀市の特徴（資料から抜粋）**
- 市内総生産は県内28市の中で11位
- 一人当たり市民所得は県内4位
- 製造品出荷額は、約2000億円で県内9位。47%が食品製造業。



詳細なデータから古賀市の特徴と課題が明確に

○産業別従業員数は、製造業35%、卸売・小売業16%、医療・福祉11%。古賀市の特徴が、食品関連の企業が多く、景気に関わら

ず安定していること。多くの市民が製造業で雇用されていること等が明らかになりました。

### 議員インターンシップ研修生が「公共図書館」について報告

議員インターンシップとして本会議や委員会の傍聴をはじめ、議員活動を体験しながら研修していた、九州大学工学部機械航空工学科1年の本田功輝さんが、研修成果をもとに「全市民の学びの場としての公共図書館」について、発表してくれました。

公共図書館の必要性、古賀市立図書館の現状と課題など、調査に基づく詳細な報告は、古賀市議会としても大変参考になりました。

パワーポイントを使ってのわかりやすい説明



プレゼンに聞き入る議員

# 一般質問

**にぎわい活気は魅力ある政策で人口増を  
(答) にぎわいには、地域経済の活性化が重要**



内場 恭子

開発と保全のメリハリのある産業の活性化を図る。今は第2の物産館は考えてない。通院費無料の実施はいつ

問 目標人口6万5000人

問 にぎわいをどう創るか。市の産業とは。農業政策重点は。

市長 地域経済の活性化、人や物が集まるまちづくりが必要。地域産業は農林業、商業と観光。農産物の特産品化、6次産業化の推進、耕作放棄地解消などを努力したい。

物産館、第2コスモス館を造って西鉄宮地岳線跡活用を

問 地域産業活性化と企業誘致、豊かな自然は同時に実現できるのか。西鉄宮地岳線跡に、第2コスモス館を造っては。市長 市の豊かな自然、海岸、河川、森林を適切に保全し、



宮地岳線跡ににぎわう物産館を

開発と保全のメリハリのある産業の活性化を図る。今は第2の物産館は考えてない。通院費無料の実施はいつ

問 目標人口6万5000人

市長 小6年までの通院費無料化は、財政負担の増など検討し、任期中には進めたい。

問 早く実施してほしい。コミュニティバスを運行し、高齢者・障がい者に自由な社会参加を保障すべきだが。

市長 コミュニティバスと比較し、西鉄バスへの補助が最良。バス停まで行けない人への対応は、プロジェクトチームで検討していく。

市長 上・下水道料金は使用料の適正化に努めたい。国保税の引下げはない。介護保険料は3年間の事業に必要な額。平成24年度、高い高齢化率の区へ、転入の世帯に住宅の購入などを補助する。

**学校給食などの放射能汚染対策は  
(答) 特に対策はない**



倉掛 小竹 (山海会)

市長 地産地消を原則としている。流通している食品は規制値を上回る食品は販売できない。今後、国の動向を見る。

問 セシウム入りの粉ミルクは暫定基準値以下であったが、本市は市内保育所などと呼びかけ回収させた経緯がある。安全と考える根拠などを市のホームページなどで周知すべきでは。

市長 東北では国、県による検査で、出荷制限が行われているが、県内の放射線量は過去の平均値内で影響はない。特に対策はとっていない。

問 市内保育所や幼稚園での給食の安全確保については。



食品の放射能実態調査を (市民測定室・東区)

被曝量を知る上で貴重なデータ。導入を検討しては。

市長 どこまでの検査を実施するか、担当課と協議する。

問 放射能汚染を心配する保護者は、お弁当持参の選択肢もとれるのか。

給食センター所長 希望があれば対応する。

古賀市食育推進計画に市民の参画は  
問 古賀市独自の計画にするためには実態調査結果を含め、市民の参画が必要では。保健福祉部長 調査をやるかは明らかではないが、各種団体に呼びかけたい。  
問 策定には学校給食や、高齢者の配食事業も視野に入れるべき。

# 今後の市の活性化をどう図るか (答) 観光・産業振興の面から検討したい



飯尾 助広  
(自由)

**問** 観光資源の開発は、  
**市長** 薬王寺温泉を観光拠点として取り組みたい。周辺の自然や史跡など今ある資源を整備し活かしたい。

**問** 谷山・小山田の間にある船原古墳は市の買い上げ後13年経つがどう整備するのか。  
**市長** 周辺の圃場整備などの進捗状況を見ながら、古墳公園化を前向きに検討したい。

**問** 犬鳴山系の麓にある小野校区は歴史的遺産や自然がいっぱいである。健康志向の人も多く史跡めぐり、自然探索を兼ねた少しハードなハイキングコースを整備しては。  
**市長** 他市でも「山辺の道を歩こう」という企画が盛況で



観光の拠点となるか 薬王寺温泉

ある。前向きに検討したい。

**問** 農業の振興について農業政策を行うに当たってのデータ(面積・田畑の区分・利用状況など)が現実とは違うのではないか。  
**農林振興課長** 確かに台帳と現状が一致しない農地が存在する。現在のところ、十分な把握をしていない。

**問** 平成24年度から国が行う農地集積対策、新規就農者対策に市としてどう取り組むか。

**農林振興課長** 現在、農区長会での説明、各地域に入ってJA、市との地域集会を実施している。

**問** 平成25年度に予定されている農振地域の見直しについて今後の方針は。  
**市長** 平成24年度に整備計画

に関する基礎調査を実施する。それに基づき見直しの方向を定めていく予定だ。

**問** 農振の見直しは地区計画、企業誘致などの活性化の支障にならないように、市の振興計画に沿った見直しを進めてもらいたい。

# ウォーキングの指導者の育成や取り組みは (答) 講座の実施や啓発を行う



姉川 さつき  
(自由)

**問** 厚労省は国民の健康づくり10年計画の素案に、1日に歩く歩数の数値目標を盛り込み、男性は8千5百歩、女性は8千歩と公表した。これを受け、市は日常的なウォーキングにどう取り組むのか。  
**教育長** 歩いてん道を活用し、地域で自主的に日常的なウォーキングが推進されるよう関係機関と連携を図る。

**問** ウォーキングの指導者づくりに取り組むのはどうか。  
**教育長** 大変重要と考える。地域ウォーキング塾を開設し、人材育成を行う。

**問** 身近にスポーツを始める機会を作る今後の政策は。  
**生涯学習推進課長** 次年度から、古賀西小学校区と千鳥小学校区をモデル校区として、国に創設支援事業として申請し、総合型地域スポーツクラブを設立し、いずれは8校区全域に広げたい。

**問** 子宮頸がんワクチンの周知の方法は。  
**市長** 対象者に接種案内を行



大勢の参加者でにぎわう市民ウォーキング

い、広報やホームページで情報発信をしている。

**問** ワクチン接種にあたり性教育は重要。取り組みは。  
**教育長** カリキュラムを見直し、保健師や看護大学の先生を外部講師として招へいしたり、各学校の養護教諭が、思春期の身体の変化や、ワクチンと予防の内容を含んだ話をしている。

**問** 保護者向けの講演会の開催は。  
**市長** 「子宮頸がんは予防できる。ワクチン接種とがん検診」と題した講演会を、サンコスモ古賀で行った。

**問** 保護者を含み、社会全体で考え、各中学校ごとに行うべき。

◇議会だよりに掲載する一般質問の原稿は、議会議録をもとに質問した議員の責任でまとめたものです。



**原発依存から、安全、経済的な電力へ転換を  
(答) 政策の転換が必要、今後も研究を進める**



田中 英輔  
(山海会)

**問** 豊かな自然と、人が共生するまちをめざしている本市として、再生可能エネルギーの促進と、原発依存の電力から、安全、経済的な電力への転換について、どう考えているか。

**市長** 特定規模電気事業者(PPS)の利用は、温暖化や電気の安定供給の観点から総合的に検討したい。

**問** 市長はエネルギー転換の必要性の答弁をしている。住民の生命、財産を守る立場の自治体が、長期に影響を与える危険な原発から、安全安心なエネルギーを利用する選択も、エネルギーの転換に沿っていると思うが。

**市長** 長期的には、新しいエネルギー政策への転換が当然必要である、今後も慎重に研究を進めていく。

**問** 原発が停止し、一般電力会社とPPSのCO<sub>2</sub>の排出量の差は小さい。被害を考えれば、原発ありきの政策から、安全で安心なエネルギー利用の温暖化対策へ転換すべきだ。

**総務部長** 地方自治体でもPPSの需要が高まっている。供給の問題もあり、慎重に調



原発事故避難で放置された病院のベッド

査、検討をしている。

**問** 環境基本計画には、省エネ行動や改修で削減した費用を、省エネ設備の導入、啓発活動に活用するエコファンド創設プロジェクトがある、促進を図るべきだ。

**市民部長** 考えなければなら

ない問題だ。PPSの今後の活用について検討しなければならぬと考える。

**大震災へ今後の支援は**

**問** 知識や技術、長期的な支援が求められているが。

**市長** 長期の支援が必要と認識する。研究中である。

**(答) プロジェクトチームで研究検討を進める  
(PT)**

**交通不便地解消や高齢者の外出支援を早急に**



芝尾 郁恵  
(公明党)

**問** 「つながりにぎわう快適安心都市こが」をめざしスタートを切る今年度、地域活性化つなかりにぎあうためには、子どもも高齢者も気軽に外出できる交通環境が不可欠。市の公共交通の現状については。

**市長** バス停まで、500m以遠の交通空白地は市内になり。現段階では、西鉄バスへの補助が最良の選択である。

**問** 「つながりにぎわう快適安心都市こが」をめざしスタートを切る今年度、地域活性化つなかりにぎあうためには、子どもも高齢者も気軽に外出できる交通環境が不可欠。市の公共交通の現状については。

**市長** バス停まで、500m以遠の交通空白地は市内になり。現段階では、西鉄バスへの補助が最良の選択である。

**問** 交通空白地はないといわれるが、市内などバス1日3便の交通不便地域は多い。西鉄バスのみでは補完できない不便地の解消に向け、地域にあった公共交通を真剣に考える市民参加の協議の場が必要では。

**市長** 今後も公共交通に関するPTで検討する。

**問** 毎回PTで検討というが、具体的に誰が何を検討したのか、協議内容議事録の有無は。

**経営企画課長** 経営企画課を中心に介護支援課等公共交通に関する部署で、7回協議会議録はとっていない。

**問** 菊池市は、赤字路線補助



「あいのりタクシー」利用のひとつま。菊池市

2600万円をやめ「あいのりタクシー」に変え800万円まで減額した。市長みずから現地を視察し、何を待たか。

**市長** 先進的で興味深いが、面積が違いすぎ、市では難しい。

**問** 今年度3400万円を西鉄バスに補助するが上限額は。

**副市長** 市民の交通手段の確保が第一義、上限設定はない。

**問** 高齢者等の外出支援具体策が急務。花鶴丘お出かけサポートを全市に拡げる支援を。

**市長** 運転手の確保の問題など地域ごとの状況があり困難。

**問** 市民活動支援センターを中心にボランティアの募集を胃がん撲滅に向け、胃がん検診に、ピロリ菌の検査を。

**市長** 国の動向を見検討する。

どうする10万本ふるさとの森づくり  
 (答) 自然の営みに任せる森づくりを基本に



阿部 友子  
 (明友会)

**問** 古賀市内外の、多くの方々の力と時間を費やしてつくったふるさとの森の今後について、どのように考えているか。  
**市長** 植林後3年間は下草刈りが必要なので、引き続き実行委員会の一員として協力していきたい。古賀グリーンパークの植樹地については、自然の営みに任せる森づくりを基本としたいと考えている。  
**問** 4年くらいは下草刈りの手入れが必要で、その後も除伐、間伐という作業を続けていかななくてはいい森にならない。自然のままに任せていては、せっかくたくさんの方々の力を借りた植樹が無駄になってしまう。



多くの方の力により 10万本植樹達成

**建設産業部長** 今後、どういう利用の仕方がいいか、市民にとつて楽しめるようなものになるような考えがあれば検討はしていく。  
**問** 竹の駆除、クズの駆除について育林行動以外に計画を立てては。  
**市長** ボランティアの方々のご意見も伺いながら、今後の対応についてさらに検討していく。

**問** 子どもたちのスポーツ活動にどのように取り組み、支援しているのか。  
**教育長** 学校部活動への支援はもとより、ジュニアスポーツ団体に対して活動支援を行うとともに、子ども会育成会連合会による球技大会や、体育指導員による軽スポーツ教室を通して、子どもたちのスポーツ活動の推進を図っている。



許山 秀仁  
 (自由)

**問** 子どもたちのスポーツ活動にどのように取り組み、支援しているのか。  
**宮地岳線跡地の計画は**  
**問** 宮地岳線跡地をいかに有効活用するかは市民の関心の的であり、他の自治体からも注目され、古賀市の真価を問われるが、その計画は。  
**市長** コンサルタントに委託し、総合的な観点から素案を

子どもたちのスポーツ活動支援は  
 (答) 一層、活動の充実を図る

**問** 子どもたちの環境教育の場、自然観察などに活用してはいいかがか。  
**教育長** 大変魅力的な提案だ。実践などを広めていければと思う。  
**紙おむつリサイクルの提案**  
**問** 高齢者人口の増加により

紙おむつの利用は増えている。資源を循環させる循環型社会をめざし、良質のパルプを使用している紙おむつのリサイクルを提案する。  
**市長** 処理方法や再資源化などについて調査している。先進事例を参考に研究する。

総合型地域スポーツクラブの実施によって、一層子どもたちのスポーツ活動の充実を進めていきたいと考えている。  
**大型店対策は**  
**問** 3号線の食品工業団地入口に、大型電照看板を設置して古賀市をPRしては。  
**市長** アイデアとしては面白いが必要であれば検討したい。コスモス館の案内表示を設置することにしている。



スポーツは子どもたちを心身ともに育てる



**対等関係の堅持には徹底した情報公開が必要  
(答) 理解が得られるよう積極的に進めている**



仲道 誠明  
(明友会)

**問** 地方自治の実現には、行政依存体質から脱皮するという住民の強い意志と実践行動力が求められている。校区コミュニティと古賀市の関係について。

**市長** パートナーシップに基づく関係と認識している。

**問** 市と自治会の対等関係の堅持には徹底した情報開示が必要と考えるが。

**総務部長** 市民の理解が得られるよう積極的に進めている。

**問** 活動の評価は。

**市長** 青柳小学校区を除く7小学校区で設立。地域の実情に合った様々な活動に取り組んでおり概ね評価している。

**問** 区長委嘱制度はいつ頃から



約 45㎡の集会所 (770世帯の団地)

ら始まったのか。

**総務課長** 合併当時(昭和30年)からと認識している。

**問** 住民が選んだ自治会長が地域活動に専念できるように配慮すべきと考えるが。

**市長** 専念できる仕組みづくりを研究したい。今の区長制度を継続しながら今後のあり方については更に議論を深めながら、より良い方向性を生み出していきたい。

**問** 校区コミュニティ活動拠

点の確保とその整備について。

**市長** 拠点の確保は重要と考えている。現在、拠点のない校区コミュニティについては、確保する方向で検討している。

**問** 各コミュニティに示すとされている25事業について。

**総務部長** 所管課で補助のあ

**地域経済活性化で、にぎわう豊かな市を  
(答) 地場産業活性化や企業誘致で財源確保**



結城 弘明  
(政風会)

**問** 国県の不透明な補助金削減に、市は力強い自主財源構築とあるが、どう挑戦するの

**市長** 地域経済の活性化や、企業誘致で健全財源確保並びに行財政改革の精神を忘れずに経費削減、効率的投資に心掛ける。

**問** 空洞化するもの作り産業の誘致施策はあるか。市単独

りかたを検討している。平成24年度中に整理をし、それに合わせて方向性をだす。

**問** 電子町内会システムの導入について。

**市長** 先進事例も含めて地域自治のあり方の研究を進めた

では、困難で産官学や地域産業との連携が重要と思うが。

**市長** 大消費地近郊であり、インターやサービエリア周辺、筑紫野古賀線に物流や最先端技術研究施設など、環境配慮型の企業誘致を積極的に行う。産官学、連携も必要で、雇用の拡大も考える。

**問** 新たな観光資源の開発が重要。海岸周辺は手付かず。

**市長** 薬王寺温泉など海、里山や貴重な歴史遺産があり、観光の振興につながる。

**問** 宮地岳線跡地購入に伴い、花鶴川鉄橋付近の河口に、子ども海洋少年団のカッター、



にぎわいある花鶴川の復活を(河口での古賀海洋少年団)

ヨット訓練や、花火大会の復活など融合した観光資源を提案するがどうか。

**市長** 海洋少年団や少年の船など教育活動は大変興味ある。花火は観光協会で研究中。しっかり支援したい。

**高齢者福祉(安心安全の構築)にどう対応するか**

**市長** 独居老人の見守りは民生委員、福祉委員、老人クラブ、更に配食や緊急通報システムなどで行っている。

**問** 将来の認知症に備え、任意成年後見人の充実対応は。

**保健福祉部長** 包括支援センターや福祉協議会で対応、急増には動向を見て対処したい。

**問** 団塊退職者活躍の場を。

**保健福祉部長** 包括支援センターで対応し、就労へつなぐ。



**防災・景観・健康に活かす河川堤防の拡張を  
 (答) まずは多自然川づくりから**



吉住 長敏  
 (希来里)

**問** 市の主要河川の現状を見て、将来の川イメージは。  
**市長** いわき市で菜の花が咲き誇る河川を見た。まず市役所近辺を親水公園に整備。  
**問** 近年、久保付近で堤防決壊の危機があり中学校の生徒も一部避難したが。  
**総務部長** 1999年6月議会の本会議の最中、大雨で久保橋の堤防が崩れかけた。  
**問** 他力的にならずに市は川のビジョンを描くべきだ。  
**建設産業部長** 河川法や、県の整備計画で対応する。  
**問** 約半世紀で山林原野は1249haが735ha、田795haが354haに半減。川上、川下人口は約2.5倍に



歩いてん道古賀コース (国道3号線付近)

増加。どう見るか。  
**市長** 市の発展とともに、人口も増えたと見てとれる。  
**問** 一触即発の事態だ。清瀬ダム中止の減災の影響は。  
**建設産業部長** 水道の資源で洪水の調整機能もあった。  
**問** 久保と青柳の河川中流の堤体幅の拡張を提案。片側農地5〜10mを相談、桜並木街道は、河川強化にも通じる。  
**建設産業部長** 市にいいもの

**問** 豊橋資源化センター視察の感想は。  
**市長** 玄界環境組合長の立場での視察だったが、構成市町の福津市長、新宮町長も一緒であり、清掃工場について共通認識を持てたことが、一番大きな利点と認識している。  
**問** 一致した共通認識とは。  
**市長** 構成市町として、玄界環境組合に働きかける点もあ



前野 早月  
 (希来里)

**(答) 循環型社会形成について研究検討するが  
 循環型社会への研究予算を高く評価するが**

**問** 清掃工場の今後、構成市町の廃棄物処理計画が非常に影響すると思うが。  
**市長** 玄界環境組合とも協議しながら、今後のあり方について、市として提案できることはしていく。  
**問** 循環型社会研究事務費は、公約に循環型都市古賀を掲げた市長が、初めて計上した予算であり、时期的にも大変意

る。古賀市は、10年先を見据えた新しい廃棄物処理のあり方を検討する時期に来ている。古賀清掃工場を構成している自治体の首長と一緒に視察はメリットがあった。  
**問** 組織体制は。  
**副市長** 環境課を1人増員し、前向きに進めていく。  
**人材の確保と育成について**  
**問** 3月11日の災害時職員動員訓練には、自宅からの徒歩を含め7割以上の職員が参集した。感想と評価は。  
**市長** 非常に頼もしいと実感。  
**問** これからの職員像には、市民に寄り添い、部下からも慕われる豊かな人間性が重要。  
**市長** 重要な要素の一つ。

であれば県に要望していく。  
**問** 青柳川と谷山川の合流箇所は目と鼻の先で橋がない。架橋を検討すべき。  
**建設産業部長** 今の段階では判断しかねる。  
**問** 潮騒橋の例もあり、実現に努力を。歩いてん道は日陰がなくて狭い。青柳と久保の2カ所の河川堤防を防災強化と景観、市民の健康に大いに活かすための河川パークに。  
**市長** 担当課とも協議する。  
**問** 大根川は昭和期に災害大復旧を終えた。古賀の大根川平成リフォームの検討を。

1.4 循環型社会研究事務費 (環境課)	1,172
8 報償費	350
1 報償費	60
・調査研究謝礼	60
2 講師謝礼	290
9 旅費	722
1 費用弁償	301
3 特別旅費	421
1 1 旅用費	100
1 消耗品費	100

循環型社会研究の第一歩へ (予算書から)

## 子育て環境の充実を

(答) 乳幼児教育のあり方を検討する重要な時期



清原 哲史  
(希来里)

の低下は起こらない。

問 正規職員と臨時の職員の立場は、おのずと差があると  
思うが。

人事秘書課長 臨時は補佐的業務で、業務内容が違う。

問 臨時を採用することは、不安定雇用を生み出し、一方では若者の雇用を阻害し、ワーキングプアを生み出すことになっていく。

市長 そこだけに原因があるとは認識していない。

問 乳幼児期における子育て環境の充実こそが、その後の人間形成に、最も重要である。公立保育所における臨時保育士の配置は、平成23年度で実に50%にも上り、0〜2歳児では臨時職員が66%を占める。この多さは、不安定雇用を生み、保育に質の低下を招きかねない。

市長 多様な保育ニーズに対応するため、やむを得ず臨時を配置した。

問 平成24年度も臨時職員を雇用するようになっていくが、やむを得ずの範疇を超え、保育の質の低下を招いている。  
保健福祉部長 カリキュラムに沿った保育をしており、質



はい。お昼寝ですよ！  
(花鶴どろんこ保育園にて)

## 市民建産委員会視察報告

平成24年2月7～8日

### イノシシの特産化事業

佐賀県武雄市

山に囲まれた武雄市では、農産物等の被害が大きく、市役所内に「いのしし課」を新設し、被害対策から駆除した肉の特産品化まで一元的に取り組む地域活性化を目指しています。

イノシシ捕獲事業として猟友会の育成、箱ワナ貸与、捕獲奨励金1頭あたり7000円、イノシシ追い払い犬の導入など。捕獲数平成22年度3464頭。



イノシシ加工処理場「やまんくじら」

イノシシ侵入防止対策として広域的な電気牧柵、ワイヤーメッシュ柵の設置。

鳥獣食肉加工処理施設(通称やまんくじら)では、捕獲したイノシシを地域の食資源として、また肉の特産品化を目指している。平成21年度に処理施設を建設。総事業費2000万円、処理能力4〜5頭/日。販売目標1000万円/年。

イノシシ肉の商品化・販路開発スモークハム・ジャーキーなどの商品開発、インターネットやイベントでの試食会などで拡販をめざしています。

### 特定用途制限地域の指定 熊本県八代市

古賀市でも導入される制度の先進事例として、視察。八代市は平成17年、1市2町3村が合併し面積680km<sup>2</sup>、人口14万人の熊本県第2の都市です。平成22年3月に九州新幹線が開通し、新八代駅周辺の農地の個別転用が可能となり乱開発を防ぐため制限をかけようとするものです。風俗関連施設、環境悪化工場などを排除し良好なまちなみの形成をめざしています。

問 平成24年度の臨時の賃金7千万円が予算計上されているが、保育士約23人正規雇用できる。質の向上のため計画的に雇用すべきではないか。

保健福祉部長 保育所再編とあわせて、採用も考える。  
問 子ども・子育て新システムは、市場原理が持ち込まれる保育の質が低下し、福祉的機

能、就学前教育がないがしろになるのでは。国に再考と改善を求めるべき。  
市長 近隣市町とも、その点を含め検討する。



# 市民活動紹介 ボランティア 訪問 ⑥

まちの草の根活動  
 紹介しま〜す!

定例会はいつも和やか (サンコスモ古賀2階ボランティアルーム)

今回紹介するのは「古賀手話の会」(会長・中野賢一さん、会員18人)です。昭和55年、福岡県手話奉仕員養成講習会受講生が中心となって古賀町手話の会(現・古賀手話の会)として誕生し、昨年1月に30周年を迎えました。

定例会(毎週火曜日)にお邪魔し、お話を伺いました。人権を尊重する市民の集いや、成人式で手話通訳をしていく皆さんです。会の活動は、県内イベントでのボランティア参加、市内小学校の総合学習の時間での手話講習等です。

手話通訳では、話し手の言葉だけでなく気持ちや感情を伝えることが大切なため、大変な集中力と体力が必要だそうです。また、新しい用語に対応するための研修、学習も不可欠で、毎週の定例会の中でも、聴覚障がいのある方を講師に手話を実践し、技術向上に努めておられます。

「通じたい」の気持ちを大切に30年

## 古賀手話の会



会員交流のバスハイク (門司港レトロ)

皆さんからは、「聴覚障がいは外見では分かりにくいいため、事故や災害時の情報が届きにくい。コミュニケーションの一つとして手話をたくさんの人に知ってもらいたい。5月には県主催の基礎講座があるので、多くの方に参加して欲しい。」などのお話がありました。

長年、手話通訳ボランティアとして活躍されている皆さんですが、穏やかな表情と明るい笑顔が素敵でした。

## 編集後記

卒業・入学、退職・入社、枯れていた草花の芽吹きと開花。人の動きや自然も、時期を待っていたように大きな変化を見せます。

古賀市の第4次総合振興計画を決定し、今年度がスタートの年となりました。議会は分科会による審議を行うなど、慎重な審議を経て、提言をまとめ、今後の市政運営に活かされるよう提出しました。

(詳細は2面に)  
 また、東日本の大震災から1年、英知を集め地域復

興の本格的なスタートの年にもしたいものです。

議会報編集委員会も気合を新たに、市民の皆様へ情報をお届けし、読まれる議会報をめざします。

田中 英輔



楽しいな、水あそび

## 表紙のことは

改築された「花鶴どろんこ保育園」入園式。かわいい赤ちゃんに思わずパチリ。元気に、心豊かに育ってほしいと願います。

議会報編集特別委員会  
 委員長 前野 早月  
 副委員長 倉掛 小竹  
 委員 阿部 友子  
 田中 英輔  
 姉川 さつき  
 吉住 長敏

第1回定例会の傍聴者は79人でした。ありがとうございました。なお、第2回定例会(6月5日開催予定)から、インターネット配信予定です。



# 第1回定例会で審議した議案の結果一覧

会期：平成24年2月28日～3月23日

号数	議案等	結果	賛成 反対	倉掛	許山	前野	清原	阿部	松島	田中	内場	芝尾	結城	三好	姉川	仲道	高原	吉住	飯尾	船越	西尾
				小竹	秀仁	早月	哲史	友子	岩太	英輔	恭子	郁恵	弘明	貴一	さつき	誠明	伸二	長敏	助広	義彰	耕治
79	第4次古賀市基本構想	可決	15:3	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	古賀市行政改革推進委員会設置条例の一部改正	可決	17:0	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	古賀市税条例の一部改正	可決	16:1	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	古賀市隣保館条例の一部改正	可決	17:0	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	古賀市介護保険条例の一部改正	可決	16:1	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	古賀市営住宅管理条例の一部改正	可決	17:0	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	古賀市公民館条例の一部改正	可決	17:0	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	古賀市立学校体育施設開放の管理運営に関する条例の一部改正	可決	17:0	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	平成24年度古賀市一般会計予算	可決	16:1	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	平成24年度古賀市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	平成24年度古賀市国民健康保険特別会計予算	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	平成24年度古賀市後期高齢者医療特別会計予算	可決	14:4	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	平成24年度古賀市介護保険特別会計予算	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	平成24年度古賀市公共下水道事業特別会計予算	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	平成24年度古賀市農業集落排水事業特別会計予算	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	平成24年度古賀市水道事業会計予算	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	平成23年度古賀市一般会計補正予算(第5号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	平成23年度古賀市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	平成23年度古賀市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	平成23年度古賀市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	平成23年度古賀市介護保険特別会計補正予算(第3号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	平成23年度古賀市公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	平成23年度古賀市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	平成23年度古賀市水道事業会計補正予算(第3号)	可決	17:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	古賀市固定資産評価審査委員会委員の選任	同意	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24年 議案1	「子ども・子育て新システム」に関する意見書提出を求める請願	採択	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	防風保安林の松枯れ対策に関する意見書(議員提出議案)	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	東日本大震災で発生したがれきの受け入れに関する意見書(議員提出議案)	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	「子ども・子育て新システム」に関する意見書(議員提出議案)	可決	18:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○は賛成 ●は反対 議員は議席順

# 県南市議会議長会を開催 19市議会議長が集結

4月12日、古賀市のサンコスモ古賀で、第111回福岡県南市議会議長会が開催されました。

この議長会は、福岡市、久留米市、大牟田市、柳川市、朝倉市、筑後市、八女市、大川市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、糸島市、福津市、う

きは市、みやま市、古賀市の19市議会の議長で構成。年2回開催されますが、今回は古賀市が開催市として担当しました。

奴間健司議長が開催市の議長として挨拶。古賀市の特徴、総合振興計画基本構想の議決経過や議会改革の取り組みなどを紹介するとともに、意見



交換、経験交流をお願いしたいと述べ、続いて開催地の市長として竹下司津男市長が挨拶しました。議長会では、第1号議案「農林水産業と経済連携協定について」(筑紫野市議会提出)、第2号議案「保安林の松枯れ対策について」(宗像市議会提出)の2議案を決定し、福岡県市議会議長会に提出することにしました。

## 議会事務局紹介

新任の大浦康志です。  
よろしくお願いします。

私たちがご案内します

議会事務局参事補佐の洪田倫男さんが、人事課長に昇格異動し、後任には、都市計画課より大浦康志さんが着任しました。今後の活躍に期待したいと思います。なお、議会事務局は、嘱託職員1人を含む5人体制です。



## インターネット議会中継 6月からスタート

### 第2回定例会

会期 6月5日～6月19日15日間  
会期日程(案)

19	15	14	13	12	8	7	6	6/5	日
火	金	木	水	火	金	木	水	火	曜
"	"	"	"	"	"	"	"	9時30分	開議時刻
本会議	一般質問	一般質問	一般質問	本会議	常任委員会	常任委員会	常任委員会	本会議	摘要

注) 会期日程は、5月31日(木)の議会運営委員会決定後、市役所ロビーなどに掲示します。  
 ◎本会議でもすべての質疑・討論の記録は「議会会議録」に収録されています。また、議会ホームページでもご覧になれます。会議録は、議会事務局で販売閲覧、市立図書館で閲覧しています。  
 ◎議会の本会議、各委員会は傍聴することができます。(本会議の傍聴席は46席、委員会傍聴席は原則5～10席です)  
 ◎請願書の締切りは5月29日(火)午後5時です。